

# ホタテガイ養殖管理情報

青森県 東青地方水産事務所  
下北地方水産事務所  
水産振興課  
青森市水産振興センター

稚貝の分散作業は23℃を下回っても、1週間以上養生させてから行いましょう

## 1 海況

10月5日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は23℃を下回る地点が出始めました（図1）。詳しくは、陸奥湾海況情報や海ナビ@あおもり（下記URL、QRコード）をご覧ください。

海況自動観測ブイの15m層の半旬別平均水温の推移は図2のとおりで、平年値であれば平館ブイで17日間、青森ブイと東湾ブイでは全く見られない23℃以上の高水温期間が、今年は全海況自動観測ブイで2か月以上継続している状況です。

## 2 稚貝分散作業時の注意点

- 現在の水温は、稚貝が成長を再開する23℃より低い状況になりつつあります。
- 今年は高水温期間がかなり長く、稚貝は疲弊した状態であると考えられます。23℃を下回ってもすぐには作業を行わず、施設を下層から餌の多い中層まで引き上げ、稚貝を1週間以上養生させてください。
- さらに、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから作業しましょう。
- 1段当りの収容枚数が多いと成長悪化やへい死につながるので、養殖方法に応じた適正な収容枚数（1段当り10～20枚）を心がけて作業してください。
- 稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。
- 流れによるぶつかり合いで、外套膜（ヒモ）が傷ついてへい死しないように、ネットにはオモリをつけましょう。また、流れが速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、施設を浮かせずぎないようにしましょう。

## 3 新貝の作業の注意点

今年の陸奥湾の水温は平年よりも概ねかなり高めからはなはだ高めで推移したため（陸奥湾海況情報No. 1454～1465）、今後の作業では例年よりも丁寧に対処する必要があります。

水温が高い状況が長く続いており、ホタテガイは疲弊している状態です。そのような疲弊した状況で施設の上げ下げを行うと、へい死率や異常貝率が高まる傾向がありますので、施設を水温の低い下層に沈めたまま安定させて動かさないでください。また、体力の消耗を抑えるために、玉付け、掃除、へい死確認などの作業は行わないでください。

新貝作業の詳細は10月下旬発行予定のホタテガイ養殖管理情報第9号を参考にしてください。

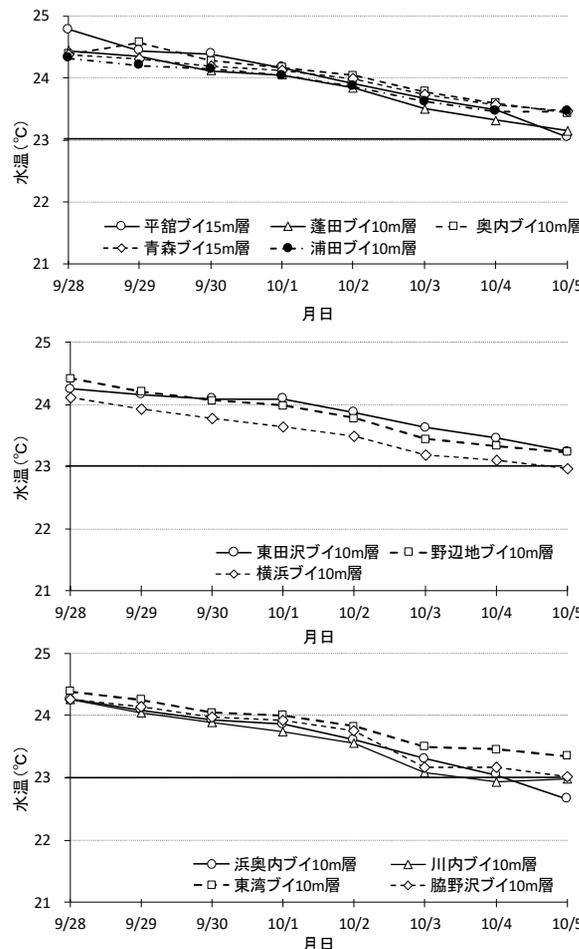


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

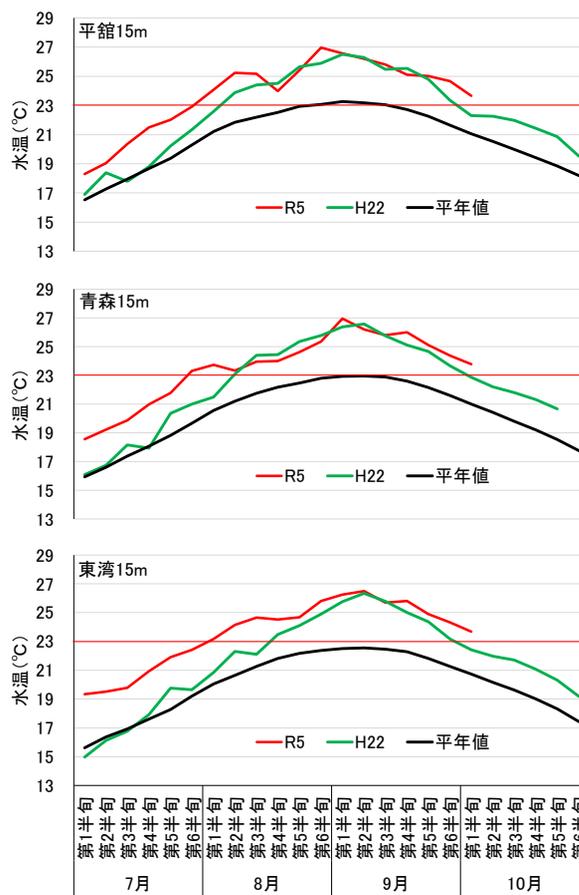


図2 海況自動観測ブイでの15m層の半旬別平均水温の推移 ※暫定値を含む



①



②